

# 感震ブレーカーの設置を補助します。

補助額：上限10,000円（100円未満の端数切捨）  
感震ブレーカーの購入及び設置に要する費用の2分の1

※対象は、市内に所有又は居住する住宅に感震ブレーカーを設置した方となります。  
詳しくは、市HP「感震ブレーカー設置費補助事業のお知らせ」を御覧ください。

## 電気火災対策には、感震ブレーカーが効果的です。

「感震ブレーカー」は、地震発生時に設定値以上の揺れを感知したときに、ブレーカーやコンセントなどの電気を自動的に止める器具です。感震ブレーカーの設置は、不在時やブレーカーを切って避難する余裕がない場合に電気火災を防止する有効な手段です。



お知らせ

地震の時、自動で電気を遮断できる  
感震ブレーカーをつけましょう

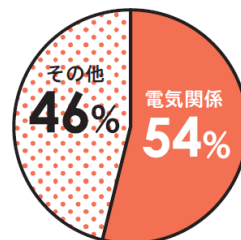
ご存じですか？

地震による火災の過半数は  
電気が原因という事実。



東日本大震災における本震による火災全111件のうち、原因が特定されたものが108件。そのうち過半数が電気関係の出火でした。地震が引き起こす電気火災とは、地震の揺れに伴う電気機器からの出火や、停電が復旧したときに発生する火災のことです。

東日本大震災における火災の発生原因



※日本火災学会誌「2011年東日本大震災 火災等調査報告書」より作成

# 製品ごとの特徴・注意点を踏まえ、適切に選びましょう！

## 分電盤タイプ(内蔵型)

分電盤に内蔵されたセンサーが揺れを感知し、ブレーカーを切って電気を遮断します。

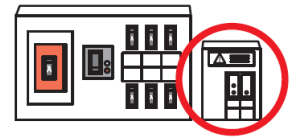


費用:約5～8万円(標準的なもの)  
※電気工事が必要

## 分電盤タイプ(後付型)

分電盤に感震機能を外付けするタイプで、センサーが揺れを感知し、ブレーカーを切って電気を遮断します。

※漏電ブレーカーが設置されている場合に設置可能



費用:約2万円  
※電気工事が必要

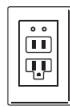
## コンセントタイプ

コンセントに内蔵されたセンサーが揺れを感知し、コンセントから電気を遮断します。

(埋込型)

壁面などに取り付けて使うもの

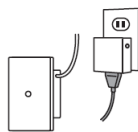
※電気工事が必要



(タップ型)

既存のコンセントに差し込んで使うもの

※電気工事が不要

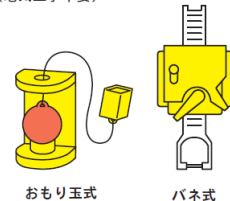


費用:約5千円～2万円程度

## 簡易タイプ

ばねの作動や重りの落下などによりブレーカーを切って電気を遮断します。

費用:約2～4千円程度  
※ホームセンターや家電量販店で購入可能(電気工事不要)



## 感震装置のはたらき【分電盤タイプの場合】

### 基本動作

地震探知後、3分が経過すると、主幹漏電ブレーカーを自動遮断します。

地震検知

検知から3分後

警報 ON(3分間)

警報 OFF

通電

通電遮断

### 地震探知後3分以内に停電が発生した場合

復電直後に主幹漏電ブレーカーを自動遮断します。

## 感震ブレーカーの設定に際しては、

## 急に電気が止まっても困らないための対策と合わせて取り組むことが必要です。

- 生命の維持に直結するような医療用機器を設置している場合、停電に対処できるバッテリー等を備えてください。
- 夜間の照明確保のために、停電時に作動する足元灯や懐中電灯などの照明器具を常備しましょう。

※感震ブレーカーの設置に関わらず、地震時やその他の自然災害時にも大規模な停電が発生するおそれがあることから、平時から停電対策に取り組みましょう。

## 耐震対策等と合わせて取り組むとさらに効果的です。

- 避難路の確保等のために、建物の耐震化や家具の転倒防止等に取り組みましょう。
- 復電する場合には、事前にガス漏れ等がないことの確認や、電気製品の安全の確認を行ってください。
- 仮に、復電後、焦げたような臭いを感じた場合には、直ちにブレーカーを遮断し、再度、安全確認を行い、原因が分からない場合には電気の使用を見合わせる必要があります。
- 定期的な作動性能の確認や、必要に応じて部品等の交換を行きましょう。

※内閣府・消防庁・経済産業省ちらし抜粋

### 【問い合わせ先】

犬山市防災交通課（市役所3階） 防災担当まで

TEL:0568-44-0346 mail:010400@city.inuyama.lg.jp